地域連携推進会議　議事録

令和 8 年 10 月 14 日

【開催日】　2026 年 10 月 14 日（水）11：00～12：00

【会場】　ライフパートナーこぶし　作業棟 1 階

【出席者】

●構成員：5 名

・ライフパートナーこぶし利用　1 名
・ライフパートナーこぶし家族　1 名
・地域の関係者　1 名（自治会役員）
・福祉に知見のある人　2 名（福祉事業従事者）

●職員：3 名

管理者・サービス管理責任者・相談支援専門員

【内容】

●趣旨説明

現在、福祉業界においては虐待や不正請求等が社会的な問題として取り上げられている。そのような背景から、外部の方が施設の中へ入ってもらい、施設を評価していただくということが求められており、「地域連携会議」を年に 1 回以上行うことが義務化された。昨年度は第三者評価という、外部の専門機関に事業所評価をしてもらっており、本年度が初めての開催となる。
1 時間という限られた時間であるが、有意義な時間とできるよう、宜しくお願い致します。

●自己紹介

●事業所の概要

法人・事業所の概要、職員数、利用者数、活動スケジュール、活動内容の紹介　等説明
※別紙参照

●地域移行について

地域移行までの流れ・取り組みについて（インテーク、アセスメント、計画作成、地域移行～定着　等説明
※別紙参照

●地域移行に関しての補足

昔は入所施設というのが終の棲家と考えられていた。しかし昨今は共生社会の実現や障害者自身の自立に重きをおいてきている。入所施設は本人の意思で入っている割合は少ないと思われ、国連にて本人

の意向を確認し地域での暮らしを本人が選べるようにしていく必要性があるといわれている。
　しかし入所は重度の方が多く利用されており、言語コミュニケーションがとれる方は数名、行動障害として日常生活を送るうえで手厚いサポートが必要な方が多い。そういった支援が必要とされる方へは入所施設としての役割が大きいと思う。

●地域グループホームとの連携について
　やすらぎは現在 1～3 寮まであり、開設当初はこぶし利用者が地域移行する際の受け皿としての機能を期待され立ち上がった。こぶしはやすらぎにとってバックアップ施設としての位置づけで、行政連携、緊急時の職員派遣体制などとっている。

【質疑応答・感想】

●質問・感想
○こぶしは昔保護者の協力が多くあったと聞いている。施設連絡会で聞くと、保護者が館内に入れる施設というのは少ない。施設をオープンにしてもらっているのはありがたいと感じている。
　地域移行について、GH は発熱時や土日などは自宅に本人が戻ってくること。体制の部分でも、てんかん発作・障害として重度ということを考えると、安心して預けられるのか疑問がある。日々の支援や活動のプログラムなど組んでもらい、日々の支援に感謝している。ただ保護者の中では支援が足りないという話が出ることもある。引き続き保護者会としても施設と連携して行っていきたい。

○自治会も高齢化が進んでおり、高齢者率 37%。一人暮らしの高齢者の見守りの取り組みも行っているが、高齢の方が高齢の方の見守り支援を行うといった現状。自治会というと、組織の中で関係が割れてしまったり、参加率が悪かったりするが、当自治会はそういった垣根の低い自治会だと思っている。
　どのようにこぶしと共生していけるかだが、例えば自治会の行事に参加するなど良いと思う。過去、自治会の夕涼み会に出店してもらうことあったと聞いている。そういったかたちで関わりを増やしていければと思う。現在行っているサロンや花の植え替えも引き続き続けていければと思う。

○入所施設というと住宅地と離れた場所に建てることがよくあるが、地域の中での立地は珍しい。そういった地域の中で安心安全に過ごせる・医療もある場所が近くにあるというのは頼もしいのではないか。また 50 人、100 人規模の施設とは違い、少ないがゆえにアイディアを採用されやすい、スムーズに動けるなどメリットもありそうである。
　一点、どこの入所施設でもそうなのだが、臭いが気になる。清潔・衛生管理など生活をするにあたっては大切なため、そういったところに取り組めると良いのではないか。
　また、当入所施設においては、本年度は他法人施設との人事交流を進めており、交換研修を行っている。自分の施設だけしか知らない、年長の職員の意見が強すぎるなど課題となってしまうことがあり、自分の施設に慣れきってしまうことはリスク。そういった交流も大切だと思っている。

○ご利用者に対し、何か意見などあるか確認すると、ないとの返答。困っていることはあるかの質問についても、ないとの返答であった。今後、何か言いたいことや困ったことがあったらいつでも話してほしいことをお伝えする。